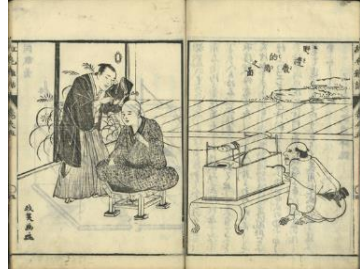


こうもうぎつわ

#40 紅毛雑話

作者：森島中良（もりしま・ちゅうりょう 1754-1810）

刊行：天明7年（1787）



[402. 15/28]

 解題

■ 内容

『紅毛雑話』は全5巻5冊本。序文を桂川甫周国瑞、大槻茂質（玄沢）、跋文を宇田川晋（玄随）、前野達（良庵）が寄せているが、当館所蔵本の序文は大槻茂質のみである。本書は、参府のため江戸にきたオランダ人と御典医である兄の国瑞の対談や、当時の蘭学者たちの日常の話題を記録し、中良が編纂したものである。オランダをはじめとした海外の地理、歴史、風俗習慣から種々奇器、動物や医学まで、その内容は多岐に渡り、収載された諸説は当時としての事実認識を伝える貴重なものであった。第5巻には附録として、オランダの服飾図を収めている。挿絵には中良本人以外に、司馬江漢、馬孟熙（北山寒巖）、北尾政美らを採用している。

■ 作者

作者は森島中良。姓は桂川とも。江戸時代中期の蘭学者、戯作者。幕府蘭方医桂川甫三国訓の次男、国瑞（甫周）の弟。蘭学者との交流から、海外事情に通じる。寛政4年（1792）から同9年（1797）まで松平定信に仕えた。また文学では、森羅万象（初世）、風来山人（二世）、竹杖為軽、月池老人等、

多くの筆名を使用し、多分野に渡り活躍した。平賀源内に師事し、安永8年（1779）には浄瑠璃を合作した。その他滑稽本・洒落本・黄表紙・読本等数多数の著作がある。

📖 本文を読む

<翻刻>

「紅毛雑話」（『紅毛雑話・蘭説弁惑』杉本つとむ解説 八坂書房 1972<生活の古典双書6>）[402.15/26]

<影印>

「紅毛雑話」（『紅毛雑話・蘭畹摘芳』青木国夫ほか編 恒和出版 1980<江戸科学古典叢書31>）[402.1/E1/31] ※県立川崎図書館所蔵

📖 参考文献

『蘭学の家桂川の人々』今泉源吉著 篠崎書林 1965 [402.15/11]

『蘭学の家桂川の人々続巻』今泉源吉著 篠崎書林 1968 [402.15/11/2]

杉本つとむ「註解・解説」（『紅毛雑話・蘭説弁惑』八坂書房 1972<生活の古典双書6>）[402.15/26]

菊池俊彦「解説」（『紅毛雑話・蘭畹摘芳』青木国夫ほか編 恒和出版 1980<江戸科学古典叢書31>）[402.1/E1/31] ※県立川崎図書館所蔵

『オランダ流御典医桂川家の世界』戸沢行夫著 築地書館 1994
[288.3CC/129]

岡田袈裟男「森島中良の見た海彼の文化：『紅毛雑話』『万国新話』を中心に」（『国文学研究』151 早稲田大学国文学会 2007）

※当館未所蔵 早稲田大学ポジトリで閲覧可能